

飲酒運転根絶への

灯をともし、共に素敵な生き方を —

STOP!!
飲酒運転®

TOMOs

ともす

Vol.26

年3回発行(次号は来年1月25日)

TOMOs スポンサー インタビュー

ペルノ・リカール・ジャパン株式会社

コーポレート・ブランドコミュニケーション部

小山 亜希子さん



なくした命への想い

北海道・砂川市

小田島 数幸さん



TOMOs スポンサー インタビュー

ペルノ・リカル・ジャパン株式会社
コーポレート・ブランドコミュニケーション部

小山 亜希子さん

想像力の喚起こそ、 酒造メーカーの責任。

創業以来五十年間
培ってきた企業精神

弊社は今年、創業五十周年の節目を迎えました。日本法人であるペルノ・リカル・ジャパンは一九九〇年に発足し、今年で三十五年になります。取り扱っているお酒にもエイジ（熟成年数）がありますので、大きな節目としての「五十年」または「三十五年」という歳月を、商品と共に歩み続けて来たという実感がありません。

「コンヴィヴィアリティ（conviviality）」という企業精神は、ずっと貫いて来た私たちのミッションです。簡単に言えば「共生」という意味の言葉ですが、私たちは「人と人との心あたたまる交流」という意味にも変換していて、これは弊社の企業活動の支柱となっています。上質なスピリッツ（蒸留酒）やワインを通して、世界中の人たちが生き生きと交流していただくことを、創業以来ずっと念願し続けて来ました。

創業者のポール・リカールは、「一日一人の友だちをつくろう」というスローガンを提唱していて、弊社のランチルームにも、この言葉が大きく掲げられています。出身地である南仏のフレンドリーな気質が、そのまま社風になっていて、それが「コンヴィヴィアリティ（conviviality）」という精神に凝縮されているのです。

二〇一九年には弊社のサステナビリティにおけるロードマップが作成され、「環境保護」・「資源循環」・「人材重視」・「適正飲酒」という四つのピラー（柱）が設定されました。

飲酒運転撲滅への協賛と 適正飲酒へのアプローチ

私たちの適正飲酒活動のひとつに「飲酒運転撲滅」への取り組みがあります。今年で十五年目を迎えますが、代表的な活動としては西日本新聞社さんの「チームゼロフクオカ」への協賛があります。毎年八月二十五日に、パネルディス

カッション形式の新聞記事を載せていただいております、弊社からも参加させてもらっています。

また、エフエム大阪さん主催のSDD(Stop! Drunk Driving)プロジェクトのパートナーとして、大阪城ホールで年一回、「飲酒運転の撲滅を誓う一万人のライブ」にも協賛させていただいています。

ペルノ・リカールは、本社（仏・パリ）主導によって、「Drink More Water（もっと水を飲みましょう）」というキャンペーンを全世界に拡大しています。

お酒と一緒に水を飲むことで、体の水分を保ち、脳の機能を守ることができる。コップ一杯の水で、自分の飲酒ペースを保つことの意識を高めているのです。

私たちは長年にわたり、アルコールの有害使用の防止と削減に対し、責任ある飲酒を促してきました。過度な飲酒や、二日酔いを起こすようなお酒の飲み方に警鐘を鳴らし、「適正飲酒」を訴え続けてきたのです。



世界中に、飲酒運転ゼロの輪を広げましょう！

ペルノ・リカル（Pernod Ricard）フランスの世界的酒造メーカー。1975年、ペルノ社とリカール社が合併して誕生。世界有数のプレミアム酒類ブランドを吸収しながら成長し、1990年、日本法人としてペルノ・リカル・ジャパン株式会社を設立。本社は東京。全国7カ所に営業所を持ち、丹念に造りあげた上質でラグジュアリーなスピリッツおよびワインブランドを販売している。

法的飲酒年齢の消費者向け、責任ある選択ができるよう、サポートをする必要があると考えています。飲酒運転撲滅も、適正飲酒も、とにかくこれを浸透させていく「教育活動」が絶対的に重要だと思っています。何度も訴えかけるとは勿論ですが、相手の「想像力」を喚起させるような対話が必要だと考えています。私たちはこれからも、想像力を豊かに、そして根気強く継続していくことを大切にしながら取り組んでいきます。

アルコールに起因する事故は個人が起こしてしまうものなので、一人ひとりの意識改革が絶対に欠かせ

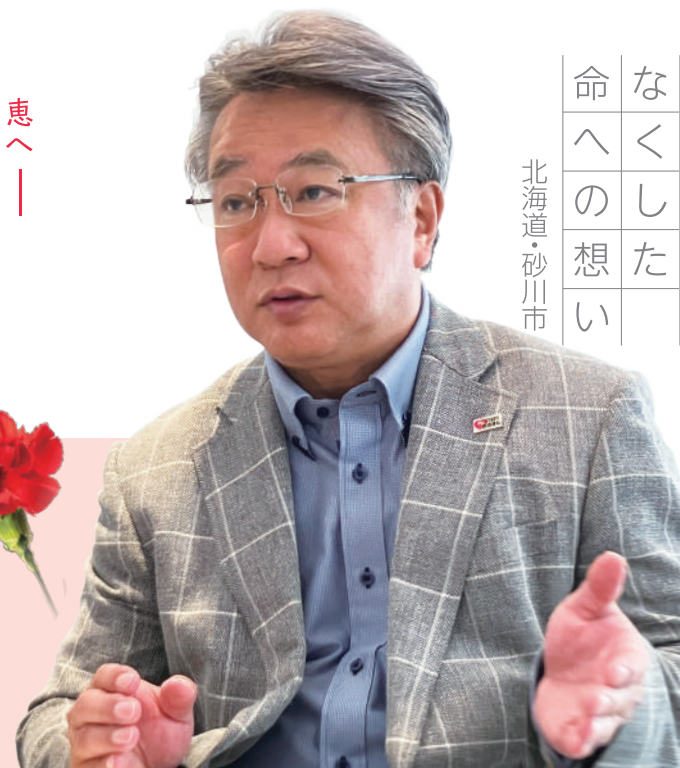
たに継続していききたいです。

(順不同)

(順不同)

命	なくした
への想い	

北海道・砂川市



恵へ——
教室のと同じ色の
カーネーションだよ

北海道砂川市・国道十二号線の沿道に、ずっと咲き続けている花があります。赤いカーネーション——二〇一五年六月六日、十七年の生涯を閉じた女子高生のために十年間、手向けられてきた鉢植えの花。飲酒運転の車に衝突され、はかなくも散っていった永桶 恵さんは、人への思い遣りに満ちた生徒でした。

他人を思い遣る 想像力を持つこと

北海道砂川高校 元・校長 小田島 数幸 さん



現場に咲き続けるカーネーション

「あんなに優しくかった子は、他に思い出すことができません」——担任だった小田島さんは当時のことを語ってくれました。

「教室で大切に育てていた花が赤いカーネーションでした。恵はいつも、朝早く登校するので、彼女が花に水をあげていたんです」

今でも、その鉢植えの花が咲くたびに、色鮮やかな思い出が、生き生きと蘇って来ると言います。

「六月の第一土曜日、毎年現場に集まる同級生たちから、『今年は行けなくてごめん』『当日行けないから前日に行くよ』という連絡が来ます。みんなずっと、この約束の日を憶えているんですね。教え子たちが、この約束を忘れず大切にしてくれていることに、とても感謝しています」

北海道砂川市 一家5人死傷事故

2015年6月6日、酒に酔った男たちが車2台で競い合って赤信号を無視、時速100キロ超で交差点に突入。一家5人が乗った車に衝突し、4人が死亡、1人が重体となった飲酒運転事故。犠牲となった永桶 恵さん(当時17歳)の同級生たちは毎年6月の第1土曜日を「約束の日」と決めて、事故現場に集まり、追悼の祈りを捧げている。



事故現場に合掌する同級生たち

「旗の波運動は、コロナ禍の様々な問題によって学校の運営が困難になっていきました。でも、砂川市の議員提案によって、事故から半年後に飲酒運転撲滅条例が施行されたことは、大きな励みになりましたね。」

大切なことは、他人を思い遣る想像力を持つことだと思ふんです。これからも、命の大切さ、思い遣りの心を伝え続けていきます」

事故現場では今年も、赤いカーネーションの花が、小田島さんや同級生たちを優しく見守っていました。

八月二十八日、新日本製薬株式会社(福岡市)本社ビルにて、飲酒運転撲滅イベントが開催されました。本イベントは昨年到现在二回目の開催。今年は北海道砂川市・生涯学習推進アドバイザーの小田島数幸さん、海の道大橋・飲酒運転事故ご遺族の大上かおりさんをお迎えし、新日本製薬・代表取締役社長CEO 後藤孝洋さん、NPO法人はあとスペース・山本美也子理事長を交えた四名のパネルディスカッションが、メディアに公開されました。

北海道から福岡へ 命をつなぐ旗の波

新日本製薬 株式会社



十年後も、二十年後も、ずっと「幸せな生活」の中に生き続けていること、そして飲酒運転や交通事故のない生活が護られ続けていくこと——そのことをずっと、私は祈っています。

小田島さん 飲酒運転の撲滅は、「必ずできる」と、私は確信しています。その理由は、若い人たちが「絶対に飲酒運転は許さない」という強い意思を持っているからです。この若い世代が、飲酒運転ゼロの社会を必ず築いてくれる！そしてまたそんな若者たちを育み、大切にしていこうと、私自身、決心しています。

山本理事長 他人から傷つけられてしまうことが、この



「旗の波」を沿道に掲げて飲酒運転撲滅を呼びかける参加者

世の中には厳然とあります。でもその反面、私たちは、人に助けてもらいながら生きていることも事実なんです。だからこそ、被害者も加害者もつくりださない社会の実現に向けて、一緒に取り組んで行きたいと思っています。

後藤CEO 私たちは飲酒運転に対して、「第三者」的な考え方を改めていくべきです。ご遺族の方々の切実な想いを「自分ごと」として捉え、第三者ではなく「当事者」としての思いに立つ——これが、私たちの社会的責任なのです。地域の皆さんと共に、これからの力を合わせてまいります。

(順不同)

(順不同)

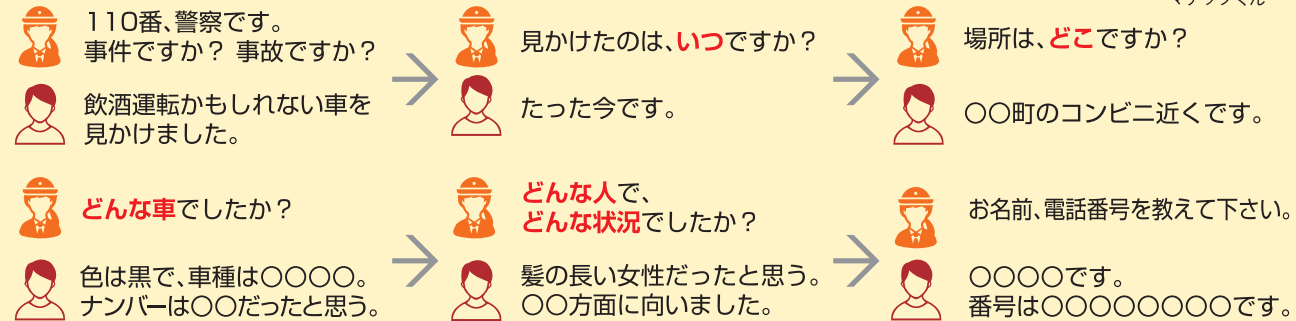
福岡県からのお知らせ

「福岡県飲酒運転撲滅運動の推進に関する条例」により、全ての県民は、車両の飲酒運転を見た場合等は、**警察官に通報しなければなりません。**

すぐに110番通報ができるよう、
飲酒運転を見た場面を想定し、通報訓練を行いましょう！

① 警察官役と通報者役を決めましょう。② 警察官役が質問を始め、通報者役は質問に答えましょう。

＜警察官と通報者の対話の一例＞



※実際に通報する際は、警察官がお尋ねするので、落ち着いて聞かれたことに答えてください。
断片的な情報でも構いません。
※通報した方の氏名などを相手に伝えることは絶対にありません。

県ホームページ
通報訓練
マニュアル(チラシ)



県警ホームページ
通報訓練
マニュアル(動画)



令和7年度 飲酒運転撲滅県民大会

主催 / 交通事故をなくす福岡県県民運動本部

福岡市「海の中道大橋」にて、幼い3人の尊い命を奪った飲酒運転事故が発生してから19年となる8月25日。悲惨な事故を決して忘れることなく、飲酒運転撲滅への決意を新たにするため「令和7年度 飲酒運転撲滅県民大会」を黒崎びびしんホール(北九州市八幡西区)にて開催しました。

県知事は、昨年の本県の飲酒運転事故の発生件数が6年ぶりに増加したことや、自転車の飲酒運転検挙件数が多い状況であることに触れ、「飲酒運転ゼロからは、程遠い状況である」とした上で、来場者に対し、「飲酒運転は、被害者の希望ある未来を奪ってしまうのみならず、被害者のご家族にも、癒えることのない強い痛みを残す。『飲酒運転は絶対しない、させない、許さない、そして見逃さない』、このことを改めて自分自身で確認し、500万県民みんなの力を合わせ、福岡県から飲酒運転を撲滅しましょう」と強く呼びかけました。

挨拶をする県知事▶



お問い合わせ

福岡県 人づくり・県民生活部 生活安全課 (交通事故をなくす福岡県県民運動本部)

☎092-643-3167 Eメール anzen@pref.fukuoka.lg.jp

福岡県飲酒運転撲滅

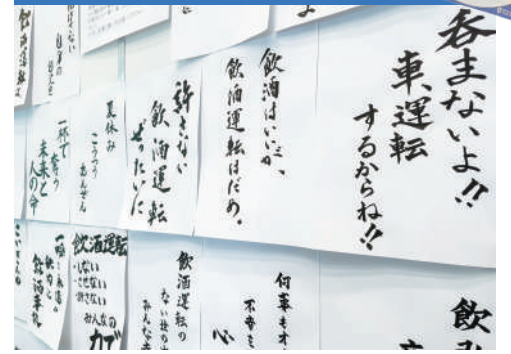
検索



マナッパくん

TEAM ZERO FUKUOKA

飲酒運転撲滅の誓い
2025



皆さんから寄せていただいた、飲酒運転撲滅のための標語。

今年も、福岡の飲酒運転撲滅を目指す市民イベント「飲酒運転撲滅の誓い2025」を八月二十日、ソラリアプラザ一階ゼファにて開催。今回は、福岡市内・六校の生徒さんたちが、飲酒運転の危険性と命の大切さを、多彩なパフォーマンスや活動報告を通して訴えかけました。

日頃の練習成果を、「社会のために活かそう!」——お酒を飲まない若者たちが、「この街から、飲酒運転をなくしたい!」と、熱く訴えかける姿は、会場を訪れた大人たちに感動を与えてくれました。

さらに会場では、飲酒運転撲滅を誓うハンドスタンプリ(手形)や、飲酒運転撲滅に関する標語を募集。会場に足を運んでくださった皆さんの飲酒運転撲滅に寄せる思いが、ひしひしと伝わってくる感覚に、とても胸が熱くなりました。

この度、飲酒運転の悲惨さを、加害者側の家族の視点から映像化し、飲酒運転撲滅のための啓発映画を完成させ、発表させていた

※制作した映画の上映に協力してくださる学校も募集中です。

加害者側の家族も、 飲酒運転事故の「被害者」。

飲酒運転撲滅のための啓発映画

製作 / 4Ring Project 福本 伶詩さん
監督・脚本 / COWYA さん



総合プロデューサーの福本さん(左)と 監督のCOWYAさん



映画ポスター

飲酒と運転を掛け合わせ
てしまうと、悲惨な化学反応
が生じてしまう。自分の生
活や家族に持ち込まないた
めの意識を、皆で共有するこ
とが大切だと思います。

は|あ|と|N|E|W|S

TOMOsをご覧ください、
ありがとうございます。

7月28日、東海電子株式会社の代表取締役・杉本様と共に内閣府を訪問し、飲酒運転対策強化の要望書を提出してまいりました。道路交通法65条第2項では「何人も酒気を帯びて車両等を運転してはならない」とある通り、体内アルコール量の如何に関わらず飲酒運転は法律違反となります。しかし実際には、呼気中のアルコール量が0.15mg未満の場合、酒気帯び運転ではありますが、取締りの対象とはなりません。

私たちは、飲酒運転ゼロを目指す団体です。飲酒運転を容認しない「ゼロトレランス」を実現できるよう、法改正に向けた訴えを続けてまいります。

※ゼロトレランス・・・酒気帯び運転の基準を0.00mg/ℓとする考え

はあとスペースHP▶



杉本社長(左)と要望書を提出▲



		選ばれ続ける、保険がある
		物流は眠らない 株式会社野村運送
	西部電気工業	



美と健康の「新しい」で、
笑顔あふれる毎日をつくる。

Beyond innovation,
for a beautiful smile!

新日本製薬はこれまで、
人々の心豊かな暮らしを願い、
常識にとらわれない発想で、
美と健康の「新しい」を届けてきました。
これからも、
世界中のひとりでも多くの方が、
幸せや感動に満ちた
笑顔あふれる毎日を過ごせるよう
新日本製薬は、
お客さま一人ひとりの声を大切に
美と健康の「新しい」を届け続けます。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

私たちは、持続可能な開発目標(SDGs)を支援しています。

 **新日本製薬**